



林野庁図書館ニュース

発行：林野図書資料館

TEL：03-3501-0964

開催！

農林水産省

「消費者の部屋」展示のご案内

本の森に出かけよう

～森のめぐみと白書の知識、山の仕事～



きぐりー

森林・林業白書
イメージキャラクター

展示期間：8月25日(月)～29日(金) 10時～17時
(25日は12時から、29日は13時まで)



もりりー

令和6年度森林・林業白書の内容について、わかりやすくパネルでご紹介します。併せて、今回の白書に関連する図書資料の紹介や森林・林業・木材産業のイラストや漫画のパネルを展示します。また様々な林業機械(ミニチュア)等を展示します。普段あまり関わる機会の少ない森林・林業・木材産業について、イラスト等で楽しく知ることができます。



また、マンガ冊子や缶バッジ(数量限定)を配布します♪



皆さま、ぜひお立ち寄りください。

本の森に出かけよう

～森のめぐみと白書の知識・山の仕事～



令和6年度版 森林・林業白書のご紹介、
林野庁の森林・林業・木材産業のマンガと
イラストをパネル展示します

林業マンガ冊子、缶バッジ(数量限定)
を配布します！
ぜひお立ち寄りください

イラスト：平田美紗子

2025年8月25日(月)～8月29日(金)
10:00 ▶ 17:00 ※25日は12時から、29日は13時まで
会場 農林水産省北別館1階「消費者の部屋」
東京都千代田区蔵が関1-2-1
問合せ 林野庁林野図書資料館 03-3501-0964
農林水産省「消費者の部屋」03-3591-6529



農林水産省

図書館の本たちからお願い

意外と気づかずにやってしまっているかもしれないこんなこと、実は本にとって嬉しくないことなんです。

×付せんを貼ること

付せんの接着剤は思うよりも強力です。跡が残ってほこり等を吸着したり、はがす際に破れたりします。

×ペン等を手で回しながら読むこと

無意識に落書きしてしまったり汚してしまいます。

×飲食しながら読むこと

ちょっとした食べこぼしも汚れやカビの原因になります。汁物等は思っている以上に飛んでいます。

図書資料は国民共有の資産です。大切に扱っていただきますよう御協力をお願いします。

イラスト活用事例のご紹介

林野庁図書資料館では、林野庁職員平田美紗子の描くイラストを活用し、国民の皆さまへの森林・林業・木材産業の普及・啓発に努めています。その一環として、イラストの利用を希望する教育機関や団体、個人の方等へ原画データの提供を行っております。

様々な場面で活用されている、その一部をご紹介します。

小学校での「林業体験」

5月28日、奈良県十津川村十津川第二小学校において、十津川村の基幹産業である林業にふれ、自然や森林への関心を高めるために行われた「林業体験」で「人to木」を使用していただきました！



「天竜材のおもちゃで遊んでみよう！」

3月21日～4月16日、浜松市立三ヶ日図書館において、木のおもちゃに触れ天竜材のすばらしさを体感し「木を利用することが山を守る」ことを知ってもらうため行われたイベントで「人to木」「林業よススメ!」「森林業循環活用図」を展示していただきました！



森林・林業まんがやイラストをご活用ください！

こどもたちに森や林業のことを伝える教材として。
さまざまなイベントでの展示やパンフレットとして。
オフィスで、お家で、ご家庭で、木材利用をお考えのみなさま。

森林や林業に興味を持っていただくきっかけづくりのひとつとして
どなたも自由にご利用いただけるコンテンツをご用意しております。
データを希望される方は、お気軽にお問い合わせください。

林野庁図書館の林業漫画・イラストは[こちら](#)



森林業循環活用図(作：林野庁職員 平田美紗子)



新着図書・注目図書のご案内



林野庁図書館は、林野行政・施策部門における専門図書館として、歴史的に貴重な明治・大正期の森林・林業・木材産業に関する資料から、森林環境教育等にご活用いただけそうな図鑑や絵本等まで幅広く図書資料を備えております。皆様のご利用をお待ちしております。当館の蔵書の中から、新着図書や注目図書の一部をご紹介します。

〈驚き(ワンダー)〉を呼び込む自然体験学習



自然体験はなぜ必要なのだろう?何を学ぶのだろう?哲学、宗教学、教育学などの多分野から理解を深め、これまでの研究の分析と現場での事例から、新たな視点〈驚き=ワンダー〉を提供する。自然体験を通じて、環境やサステナビリティを学ぶ心身をつくる第一歩を踏み出そう。

編集:関 礼子、井上 真理子、太田 和彦
出版社:昭和堂(2025年6月)

国際的な環境ガバナンスと日本の木材利用



林野庁等で長きにわたり日本の森林政策にかかわってきた著者が考える、国際的な環境ガバナンスを踏まえたこれからの日本の森林や木材利用とは——。
自己研鑽と問題提起のために自ら立ち上げたWEBサイト「持続可能な森林経営のための勉強部屋」による25年の活動を通し、産官学民の垣根を越えてさまざまな議論を重ねてきた著者だからこそその視点、未来への提言をわかりやすくまとめた1冊。

著者:藤原 敬
出版社:築地書館(2025年7月)

実証実験・保持林業 広葉樹を残して生き物を守る



単一の林分内で木材生産と生物多様性保全の両立を目指し、北海道有林のトマツ人エ林160ヘクタールで、保持林の大規模実証実験を行って12年。一連の成果を、研究者、林業事業体、企業、行政の担当者たちが紹介。

編/著:山浦 悠一、山中 聡
出版社:築地書館(2025年6月)

これからの森林学入門



さまざまな側面をもつ森林について学ぶ森林学の入門書。森と私たちのかわりを豊富な図版と写真を交えてわかりやすく説明します。

〔内容〕森は生きている:森林エコシステムのしくみ/森に守られる:森林と環境/森を育てる:サステナブルな森の活用/森とつながる:森林サービスの可能性/これからの森の可能性

著者:太田 祐子・杉浦 克明・園原 和夏・松倉 君子
出版社:朝倉書店(2025年7月)

山の富豪の資本主義「資源国」日本の近代



山がもたらす豊富な材料やエネルギーは、近代日本の産業化をいかに支えたのか。建築業・工業への貢献から水力発電・ガスなどのインフラ開発、銀行・投資事業まで、近世以来の林業・鉱業資産家が果たした役割を徹底的かつ精緻に解明。「海の富豪」との連関もたどりながら、「資源小国」とは異なる日本経済のもうひとつの姿に迫る。

著者:中西 聡
出版社:名古屋大学出版会(2025年5月)

いっぽんのき



里山が都会に。空の上から見下ろすと、雲間から工事や木を切る様子が垣間見える。川が無くなり、山がならされ、人が増える。そして都会にビルと住宅、車。それでも小さな公園に一本のドングリの木が残っていた。木の下ベンチにおばあちゃんと子ども。一匹のセミが地上に出てきて……。

文:塩野 米松
(第33回みどりの文化賞受賞者)
絵:松本 春野
出版社:農山漁村文化協会(2025年6月)

山の木、とどけ! つなげるつながる木の仕事



山の木はどうやって、わたしたちの元まで届くのだろう?キッチンミノルが5年の歳月をかけて取材し、普段見ることのできない山の作業に密着した迫力のある写真とあたたかみのある文章で70年前に植えられた木が形を変えて、新しい机になるまでを追っかけてます。

著者:キッチンミノル
出版社:テキサスブックセラーズ(2025年5月)

野鳥手帳 第2版 「あの鳥なに?」がわかります!



十数年ぶりに見直された新しい分類(日本鳥類目録改訂第8版)に対応。似ている鳥を見分けるための特徴はイラストで、実際の見え方や生息環境は写真を使って紹介するハンディサイズの野鳥図鑑。雌雄、成鳥・幼鳥、夏羽・冬羽など羽衣の違いをイラストで紹介。日本の野鳥244種を収録。野鳥が見つかる場所、観察におすすめの季節、見つけた鳥の検索表など、バードウォッチング初心者に必要な情報を充実させました。

文・写真:叶内 拓哉 イラスト:水谷 高英
出版社:文一総合出版(2025年5月)

